

電気・精密機器

1. 評価対象企業（21 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】

日立製作所、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、パナソニック、ソニー

【電子部品部門】

日本電産、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】

富士フイルムホールディングス、コニカミノルタ、セイコーエプソン、ニコン、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	33
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	13
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	9
計		21	100

（注）評価項目の内容および配点は 58 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 57 名（30 社）である。（59 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（54～57 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**において配点変更 1 項目、**説明会等**において新設 1 項目、削除 1 項目、配点変更 1 項目、**フェア・ディスクロージャー**において新設 1 項目、配点変更 1 項目、**コーポレート・ガバナンス関連**において内容変更 1 項目、**自主的情報開示**において新設 1 項目、配点変更 1 項目を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」と省略）の総合評価平均点は 74.2 点（昨年度 74.8 点）となった。また、総合評価点の標準偏差は 6.3 点（昨年度 7.4 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、精密機器部門（8 社）が 74.6 点（昨年度 74.0 点）、産業・民生エレクトロニクス部門（7 社）が 74.5 点（昨年度 75.4 点）、電子部品部門（6 社）が 73.3 点（昨年度 75.4 点）となり、昨年度と比べ、電子部品部門がやや低下し、他の 2 部門はほぼ同水準となった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 76%（昨年度 75%）、**説明会等**が 76%（昨年度 79%）、**フェア・ディスクロージャー**が 78%（昨年度 82%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 68%（昨年度 70%）、**自主的情報開示**が 66%（昨年度 58%）となり、**自主的情報開示**の分野が改善し、他の分野との差が縮小した。
- ④ 評価項目について見ると、全 21 項目のうち次の 6 項目が 80%以上の平均得点率となった。

- (a) 「IRの専門部署があり取材が容易にできますか」(平均得点率 90%、得点率(評価点/配点(以下省略)): 90%台 11社・80%台 10社)
 - (b) 「社長または会長が、会社主催の説明会に必要な応じ適宜出席していますか」(平均得点率 86%、得点率: 100%1社・90%台 7社・80%台 8社)
 - (c) 「決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値が、適切に記載されていますか」(平均得点率 86%、得点率: 100%10社)
 - (d) 「売上高および営業利益の補足情報が、四半期ベースで開示されていますか」(平均得点率 83%、得点率: 90%台 2社・80%台 12社)
 - (e) 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」(平均得点率 83%、得点率: 90%台 2社・80%台 14社)
 - (f) 「主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか」(平均得点率 82%、得点率: 90%台 4社・80%台 9社)
- ⑤ なお、本年度において、「制度開示の変更を踏まえ、公表情報の一層の拡充に努めていますか」という評価項目を新設(評価点 3 点)したところ、平均得点率は 74%(得点率: 80%台 5 社・70%台 12 社・60%台 4 社)となった。この項目で得点率が平均得点率に満たない企業については今後の改善が望まれる。
- ⑥ 一方、次の評価項目は、昨年度比+3 ポイント上昇し、平均得点率が 61%となったものの、全評価項目中最低の平均得点率である。得点率が低位の企業については今後の改善が望まれる。
- ・ 「工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容は有益でしたか」(得点率: 40%台 4 社・50%台 5 社)

(2) 全体の上位 5 企業の評価概要

第 1 位 日本電産(ディスクロージャー優良企業[6 回目]総合評価点 87.0 点[昨年度比+1.2 点]、昨年度第 2 位)、電子部品部門: 13 回連続第 1 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 93%)、説明会等(87%)が第 1 位、フェア・ディスクロージャー(89%)、コーポレート・ガバナンス関連(83%)が第 2 位、自主的情報開示が 3 社同得点第 8 位(69%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、会長兼社長が四半期ごとの決算説明会で直近の施策を中長期戦略の視点から明確に説明していることから、中長期ビジョンに対するディスカッションが可能であることなど、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、会長兼社長の考えが IR 部門に浸透しており、IR 責任者が常に事業状況をアップデートし取材対応しているなど、同部門の機能が充実していることも高く評価された。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していることも高い評価となった。
- ③ 説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることや、決算説明会において翌四半期の見通しなど今後の方向性を具体的に説明していることで高い評価を受けたほか、決算説明会のプレゼンテーション資料が、簡潔に要約されかつ充実していることや、主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていることも高く評価された。また、インタビューにおいて、主要製品または事業の販売・受注動向が数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていることも高い評価となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、制度開示の変更を踏まえ、公表情報の一層の拡充に努めていることなど、その取組姿勢やホーム・ページでの有用な情報提供(質疑応答を含めた決算説明会の状況の配信等)のほか、外国人投資家向け情報提供も高く評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、中期計画が具体的で、そこに至る過程も明確であることや、資本政策、株主還元策が十分に説明されている点が評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。なお、同社は、電子部品部門において 13 回連続第 1 位の評価となった。

第2位 オムロン（総合評価点 82.5 点〔昨年度比－3.4 点〕、昨年度第1位、産業・民生エレクトロニクス部門：5回連続第1位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第2位（85%）、フェア・ディスクロージャーが2社同得点第3位（88%）、コーポレート・ガバナンス関連（82%）が第3位、自主的情報開示が2社同得点第4位（76%）、説明会等が2社同得点第7位（79%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、社長が先頭に立って IR 活動を推進しているほか、会社主催の説明会において自ら経営戦略を分かりやすく説明していることなど、経営陣の IR 姿勢が評価された。また、IR 部門に詳細な情報が蓄積されており、情報開示も十分であるなど、同部門の機能が充実していることも高く評価された。さらに、経営分析に必要な重要情報開示の継続性に配慮していることも高く評価された。
- ③ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢やホーム・ページでの有用な情報提供（質疑応答を含めた決算説明会の状況の配信等）のほか、外国人投資家向け情報提供も高く評価された。
- ④ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について進捗状況を含め十分な説明がされていることや、中・長期経営計画（ROE など目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を説明していること、さらには資本政策、株主還元策についても説明していることなどにより、高い評価となった。
- ⑤ 自主的情報開示においては、統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していることが高い評価となった。

以上の結果、同社は、産業・民生エレクトロニクス部門において5回連続第1位の評価となった。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

第3位 東京エレクトロン（総合評価点 82.3 点〔昨年度比＋2.9 点〕、昨年度第8位、精密機器部門：第1位（5回目））

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が第1位（85%）、説明会等が第2位（84%）、経営陣の IR 姿勢等が第3位（83%）、自主的情報開示が3社同得点第8位（69%）、フェア・ディスクロージャーが2社同得点第11位（82%）となった。
- ② 同社が第1位となったコーポレート・ガバナンス関連においては、連結配当性向 50%、年間配当 150 円を下回らない、自己株式取得の機動的な実施を検討するなど、業界では最も意欲的かつ明確な株主還元策、資本政策の開示が高く評価された。
- ③ 経営陣の IR 姿勢等においては、会長、CFO が IR 活動に積極的に取組み、明確な中期経営戦略を提示し、説明会を開催するなど、会社の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門に情報が集積され、アナリストが担当者と有益なディスカッションができるなど、IR 部門の機能も高く評価された。
- ④ 説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることや、翌四半期以降の見通しなど今後の方向性を具体的に説明していることなど、説明会における開示が評価された。さらに、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実していることなど、説明会資料等における開示も評価された。

以上の結果、同社は、精密機器部門において、第1位の評価となった。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

第4位 ソニー（総合評価点 79.5 点〔昨年度比＋2.3 点〕、昨年度第10位、産業・民生エレクトロニクス部門：第2位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位（92%）、自主的情報開示が第3位（78%）、経営陣の IR 姿勢等が第5位（80%）、コーポレート・ガバナンス関連が2社同得点第5位（72%）、説明会等が第10位（78%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、IR 部門の人材配置が十分であること、IR 部門とマネジメントとの距離が近く、取材が有益であることなど同部門の機能が評価された。
- ③ フェア・ディスクロージャーにおいては、説明会などの状況がリアルタイムで Web 配信されていることや、情報提供の機会が平等であることなど、その取組姿勢が高く評価され、この分野でトップの得点率となった。

- ④ 自主的情報開示においては、「IR Day」、「経営方針説明会」等の内容が有益であり、評価された。また、四半期ごとにセグメント別の ROIC、運転資本、構造改革費用等の開示が充実していることも評価された。

第 5 位 セイコーエプソン（総合評価点 79.1 点〔昨年度比－0.2 点〕、昨年度第 9 位、精密機器部門：第 2 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（81%）、説明会等が第 5 位（81%）、自主的情報開示が第 6 位（73%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 8 位（70%）、フェア・ディスクロージャーが 2 社同得点第 9 位（83%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、社長が説明会において経営方針・中期計画等を十分に説明していることなど、経営陣の IR 姿勢が評価された。また、IR 部門に十分な人材が配置され情報も各部門から吸い上げられていることから、十分な議論ができることなど、同部門の機能も高く評価された。
- ③ 説明会等においては、決算説明会のプレゼンテーション資料が充実しており、かつ簡潔に要約されているなど、説明会資料等における開示が高い評価となった。
- ④ 自主的情報開示においては、新商品説明会、事業説明会、海外事業所見学会等、機関投資家・セルサイドアナリスト向けの有益な企画を多数開催したことが評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **ローム（総合評価点 69.9 点〔昨年度比＋6.7 点〕、第 16 位〔昨年度第 22 位〕、電子部品部門：第 4 位）**

- ① 同社は、自主的情報開示が 3 社同得点第 8 位（69%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 9 位（68%）、経営陣の IR 姿勢等が第 14 位（74%）、説明会等が第 16 位（72%）、フェア・ディスクロージャーが第 19 位（57%）となり、5 分野中 4 分野で昨年度の得点率を上回った。特に、自主的情報開示で＋41 ポイント、説明会等で＋6 ポイント上昇したことなどにより、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅で第 1 位、順位の上昇幅で 2 社同点第 1 位）につながった。
- ② 同社は、説明会等において、車載用半導体を始め投資家の注目する製品の中期的見通しについて自主的に開示していることが高く評価された。

(参考) 部門別の第 1 位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

オムロン（総合評価点 82.5 点、当部門 5 回連続第 1 位、全体第 2 位）

【電子部品部門】

日本電産（総合評価点 87.0 点、当部門 13 回連続第 1 位、全体第 1 位）

【精密機器部門】

東京エレクトロン（総合評価点 82.3 点、当部門 5 回目第 1 位、全体第 3 位）

以 上

平成29年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（電気・精密機器:全体）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価項目5 (配点 33点)	評価点	順位	評価項目7 (配点 32点)	評価点	順位	評価項目4 (配点 13点)	評価点	
1	(6594) 日本電産	87.0	30.7	1	27.7	1	11.6	2	10.8	2	6.2	8	2
2	(6645) オムロン	82.5	28.2	2	25.4	7	11.4	3	10.7	3	6.8	4	1
3	(8035) 東京エレクトロン	82.3	27.5	3	26.9	2	10.7	11	11.0	1	6.2	8	8
4	(6758) ソニー	79.5	26.4	5	24.9	10	11.9	1	9.3	5	7.0	3	10
5	(6724) セイコーエプソン	79.1	26.6	4	26.0	5	10.8	9	9.1	8	6.6	6	9
6	(6762) TDK	77.9	25.3	7	26.6	3	11.0	5	8.6	11	6.4	7	4
7	(6501) 日立製作所	77.6	24.9	13	25.0	9	11.4	3	9.2	7	7.1	1	7
8	(4901) 富士フイルムホールディングス	77.4	25.3	7	25.4	7	10.2	15	9.4	4	7.1	1	6
9	(4902) コニカミノルタ	77.0	25.3	7	24.8	11	10.8	9	9.3	5	6.8	4	11
10	(6981) 村田製作所	76.4	25.2	10	26.5	4	10.7	11	8.3	14	5.7	14	5
11	(6702) 富士通	74.3	25.2	10	23.6	13	10.9	8	8.7	10	5.9	13	15
12	(7731) ニコン	73.0	25.9	6	25.6	6	8.5	18	8.3	14	4.7	18	14
13	(6701) 日本電気	72.1	24.1	15	23.5	14	11.0	5	7.9	19	5.6	15	12
14	(6752) パナソニック	72.0	23.1	17	23.5	14	11.0	5	8.3	14	6.1	11	13
15	(7751) キヤノン	70.1	22.9	18	23.9	12	10.0	16	8.6	11	4.7	18	19
16	(6963) ローム	69.9	24.4	14	23.0	16	7.4	19	8.9	9	6.2	8	22
17	(7741) HOYA	69.7	25.1	12	22.9	17	9.1	17	8.0	18	4.6	20	21
18	(7752) リコー	68.3	23.5	16	21.7	18	10.3	14	7.7	20	5.1	16	20
19	(6971) 京セラ	64.7	21.0	21	21.5	19	10.4	13	7.3	21	4.5	21	17
20	(6988) 日東電工	63.9	22.5	19	21.1	20	6.6	20	8.6	11	5.1	16	16
21	(6503) 三菱電機	63.7	22.5	19	20.5	21	6.5	21	8.2	17	6.0	12	18
	評価対象企業評価平均点	74.21	25.03		24.28		10.10		8.87		5.93		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.3点(昨年度7.4点)であった。

平成29年度 ディスクロージャ－評価比較総括表 (産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣の I R 姿勢、 I R 部門の機能、I R の基本スタンス	2. 説明会、インタビュ－、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディーサ ロージャ－	4. コーポレ－ト・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目 5 (配点 33点)	評価項目 7 (配点 32点)	評価項目 4 (配点 13点)	評価項目 3 (配点 13点)	評価項目 2 (配点 9点)	
1	(6645) オムロン	82.5	評価点 順位 28.2 1	評価点 順位 25.4 1	評価点 順位 11.4 2	評価点 順位 10.7 1	評価点 順位 6.8 3	1
2	(6758) ソニー	79.5	26.4 2	24.9 3	11.9 1	9.3 2	7.0 2	3
3	(6501) 日立製作所	77.6	24.9 4	25.0 2	11.4 2	9.2 3	7.1 1	2
4	(6702) 富士通	74.3	25.2 3	23.6 4	10.9 6	8.7 4	5.9 6	6
5	(6701) 日本電気	72.1	24.1 5	23.5 5	11.0 4	7.9 7	5.6 7	4
6	(6752) パナソニック	72.0	23.1 6	23.5 5	11.0 4	8.3 5	6.1 4	5
7	(6503) 三菱電機	63.7	22.5 7	20.5 7	6.5 7	8.2 6	6.0 5	7
	評価対象企業評価平均点	74.54	24.92	23.77	10.58	8.91	6.36	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.2点(昨年度6.3点)であった。

平成29年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会・インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目5 (配点 33点)	評価項目7 (配点 32点)	評価項目4 (配点 13点)	評価項目3 (配点 13点)	評価項目2 (配点 9点)	
1	(6594) 日本電産	87.0	評価点 30.7 順位 1	評価点 27.7 順位 1	評価点 11.6 順位 1	評価点 10.8 順位 1	評価点 6.2 順位 2	1
2	(6762) TDK	77.9	評価点 25.3 順位 2	評価点 26.6 順位 2	評価点 11.0 順位 2	評価点 8.6 順位 3	評価点 6.4 順位 1	2
3	(6981) 村田製作所	76.4	評価点 25.2 順位 3	評価点 26.5 順位 3	評価点 10.7 順位 3	評価点 8.3 順位 5	評価点 5.7 順位 4	3
4	(6963) ローム	69.9	評価点 24.4 順位 4	評価点 23.0 順位 4	評価点 7.4 順位 5	評価点 8.9 順位 2	評価点 6.2 順位 2	6
5	(6971) 京セラ	64.7	評価点 21.0 順位 6	評価点 21.5 順位 5	評価点 10.4 順位 4	評価点 7.3 順位 6	評価点 4.5 順位 6	5
6	(6988) 日東電工	63.9	評価点 22.5 順位 5	評価点 21.1 順位 6	評価点 6.6 順位 6	評価点 8.6 順位 3	評価点 5.1 順位 5	4
	評価対象企業評価平均点	73.27	24.84	24.39	9.61	8.75	5.68	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.4点(昨年度9.2点)であった。

平成29年度 ディスクロージャー評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目5 (配点 33点)	評価項目7 (配点 32点)	評価項目4 (配点 13点)	評価項目3 (配点 13点)	評価項目2 (配点 9点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	(8035) 東京エレクトロン	82.3	27.5	1	10.7	3	6.2	4
2	(6724) セイコーエプソン	79.1	26.6	2	10.8	1	6.6	3
3	(4901) 富士フイルムホールディングス	77.4	25.3	4	10.2	5	7.1	1
4	(4902) コニカミノルタ	77.0	25.3	4	10.8	1	6.8	2
5	(7731) ニコン	73.0	25.9	3	8.5	8	4.7	6
6	(7751) キヤノン	70.1	22.9	8	10.0	6	4.7	6
7	(7741) HOYA	69.7	25.1	6	9.1	7	4.6	8
8	(7752) リコー	68.3	23.5	7	10.3	4	5.1	5
	評価対象企業評価平均点	74.64	25.27		10.06		5.73	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.1点(昨年度7.7点)であった。

29年度評価項目および配点（電気・精密機器）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		配点 (33点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
① 社長または会長が会社主催の説明会（ テレフォンカンファレンスを含む ）に必要な応じ適宜出席していますか。（前年7月から本年6月までの間）		4
② 社長または会長が、会社主催の説明会（ テレフォンカンファレンスを含む ）において、経営方針・中期計画等を十分に説明していますか。		10
(2) IR部門の機能		
① IRの専門部署があり取材が容易にできますか。		4
② IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。		10
(3) IRの基本スタンス		
・ 経営分析に必要なかつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。		5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		配点 (32点)
(1) 説明会における開示		
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものです。		5
② 決算説明会において、今後の方向性（ 翌四半期の見通し等 ）を具体的に十分説明していますか。		5
(2) 説明会資料等における開示		
① 決算説明会におけるプレゼンテーション資料は、充実しておりかつ簡潔に要約されていますか。		5
② 決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値（ 設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績等 ）が、適切に記載されていますか。		4
③ 主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか。		4
(3) インタビュー等における開示		
① 主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。		5
② 売上高および営業利益の補足情報が、四半期ベースで開示されていますか。		4
3. フェア・ディスクロージャー		配点 (13点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
① 制度開示の変更を踏まえ、公表情報の一層の拡充に努めていますか。		3
② 経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。		3
(2) ホーム・ページにおける情報提供		
・ ホーム・ページで財務データ・説明会のリプレイや質疑応答の内容等有用な情報を活用しやすい形式で提供していますか。		4
(3) 外国人投資家向け情報提供		
・ 説明会およびテレフォンカンファレンスの英語対応（ 和英同時通訳、英語による開催あるいは事後の英語によるスクリプトの提供 ）が実施されていますか。		3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (13点)
(1) コーポレートガバナンス・コード		
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。		3
(2) 目標とする経営指標等		
・ 中・長期経営計画（ ROEなど目標とする経営指標 ）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。		5
(3) 資本政策、株主還元策の開示		
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。		5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点 (9点)
① 工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間）		6
② 統合報告書、ファクトブック、その他これらに準ずるものの内容は充実していますか。		3

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	嶋田 幸彦	SMBC 日興証券
部会長代理	浦 昌平	アムンティ・ジャパン
	江沢 厚太	シティグループ証券
	佐渡 拓実	大和証券
	福永 敬輔	三井住友信託銀行
	和田木 哲哉	野村證券

評価実施アナリスト（57名）

相場 繁	野村アセットマネジメント	田中 健士	みずほ証券
赤羽 高	東海東京調査センター	谷林 正行	QUICK
秋澤 宏典	東京海上アセットマネジメント	陶 志遠	アライアンス・パースタイン
有沢 正一	岩井コスモ証券	豊田 博幸	QUICK
伊藤 健悟	QUICK	中根 康夫	みずほ証券
井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券	中名生 正弘	ジェフリース証券
今津 拓洋	アセットマネジメント One	野口 昌泰	野村證券
内野 晃彦	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	萩原 幸一朗	東海東京調査センター
浦 昌平	アムンティ・ジャパン	花屋 武	SMBC 日興証券
江沢 厚太	シティグループ証券	引地 真二	アセットマネジメント One
大野 高	三菱 UFJ 信託銀行	福永 敬輔	三井住友信託銀行
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
小野 雅弘	モルガン・スタンレー MUFG 証券	松村 泰武	大和住銀投信投資顧問
片山 智宏	三井住友信託銀行	光田 寛和	東京海上アセットマネジメント
桂 竜輔	SMBC 日興証券	宮本 武郎	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
久保田 悟	三井住友信託銀行	牟田 知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	村上 貴信	岡三証券
小山 誠	富国生命投資顧問	森山 久史	JP モルガン証券
斉田 健一	みずほ証券	安岡 智史	三井住友信託銀行
坂森 真裕子	大和住銀投信投資顧問	安田 秀樹	エース経済研究所
佐々木 裕一	アセットマネジメント One	安山 誠健	富国生命投資顧問
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	山崎 雅也	野村證券
佐渡 拓実	大和証券	山田 幹也	みずほ証券
醒井 周太	ニッセイ アセット マネジメント	山本 将	三菱 UFJ 信託銀行
嶋田 幸彦	SMBC 日興証券	若林 恵太	水戸証券
菅原 繁男	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	和田木 哲哉	野村證券
鈴木 邦夫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	渡辺 一茂	日興アセットマネジメント
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
田口 洋	ドイツ証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。